

## 令和2年度トヨタ工業学園卒業式 豊田社長あいさつ全文

卒業生の皆さん、ご家族の皆様、ご卒業おめでとうございます。

この壇上から見える景色は、これまでの卒業式とはずいぶん違いますが、変わらないこと、より強くなったものがあると思います。

それは、卒業生の皆さんの目の輝きと、我が子の成長を願うご家族の皆様の想いです。

新型コロナウイルスの感染拡大により、私たちの暮らしは一変しました。学園生活も例外ではありません。

クラブ活動や行事を含め、日常生活が大きく制限される中、これまでのような訓練ができなかったと思います。

それでも皆さんは、「今、自分たちができることをやろう」と自ら考え、行動してくれました。

マスク不足の中で、会社から支給されたものは  
地元の医療機関の方々にお譲りして、自分たちのマスクは  
自分たちでつくってくれましたね。

慣れない針仕事に悪戦苦闘しながらも、トヨタらしく、  
原価と品質にこだわり、モノづくりの技能に磨きをかけてくれました。

これまで地域の方々を整備してくださっていた公園や道路。

コロナの影響で、その作業をできないご高齢の方々が  
いることを知ると、「今こそ、若い自分たちの出番だ」とばかりに、  
汗だくになって、生い茂る雑草をきれいにしてくれましたね。

工場実習では、モノをつくれな、現場に入れない悔しさを  
味わったと思います。生産が回復した時には、  
「お客様に一刻も早くお届けしよう」と、必死になって  
取り組んでくれましたね。

ここにいるみんなが、「当たり前前のもは何もない。

すべては誰かが努力しているおかげなんだ」

ということを感じてくれたと思います。

そして、何よりも強く感じたことは、

どんな時でも皆さんの支えになってくださる

「ご家族への感謝」だったのではないのでしょうか。

ご家族の皆様。

本来であれば、この場で直接、お子さまの凛々しい姿を

ご覧になりたかったことと思います。

ご安心ください。

今、私の目の前にいる卒業生は、しっかりとした目で、

自分たちの未来を見すえております。

ご家族に会いたいののに会えない…

普段の訓練ができない…

経験したことのない苦しさを乗り越えてきた「強さ」と  
「自分以外の誰か」のことを思いやれる「優しさ」。

このふたつを身につけ、立派に成長してくれました。

入学式の時のどこか頼りなかった姿は、もうここにはありません。

大切なお子さまを私どもにお預けいただき、  
本当にありがとうございました。

これからトヨタを支える人財として、心身ともに成長いただけるよう、  
私も全力でサポートしてまいります。

昨年、これからのトヨタのあるべき姿をまとめた  
「トヨタフィロソフィー」をつくり、  
私たちの使命として「幸せの量産」を掲げました。

強くて優しい人でなければ、誰かを幸せにすることはできません。

ここトヨタ工業学園を卒業した皆さん、

もっともっと強くて優しい人になってください。

そして、多くの人々を笑顔に、幸せにするために、

一生懸命努力してください。皆さんなら、それができます。

最後になりましたが、本日ご参加いただいております

皆様からの、変わらぬご支援を心よりお願い申し上げまして、

私からの御礼と御祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。